

東区 東山の下地区コミュニティ協議会

活動名：民生・福祉部会活動

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

・高齢化が進む中、高齢者を地域で支えていくためには、福祉活動の拡大と充実が必要である。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

・福祉活動の三大事業として実施している「敬老お楽しみ会」、「福祉研修会」、「歳末ゲーム大会」について、内容を検討し、多くの方に参加してもらうことを目標とした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ① 敬老お楽しみ会（9月13日、参加者：約250名）
 - ・吹奏楽（藤見中学校吹奏楽部）、落語（三流亭楽々）、踊り（日本舞踊）、歌曲・合唱、ウクレレ演奏、マジック、ストレッチ体操（包括支援センター）等
- ② 福祉研修会（11月18日、参加者：約100名）
 - ・東区健康福祉課、東区社会福祉協議会、地域包括支援センターの説明
 - ・地域で発生した「介護・見守り」に関する事例紹介
 - ・7ブロックに分かれたグループ討議（自治・町内会の「見守り支援策」について）
- ③ 歳末ゲーム大会（12月20日、参加者：約350名）
 - ・全員参加のビンゴゲーム、子供たちによる千本釣りゲーム、カルタ取り「中地区たまげたカルタ」、紙芝居（じゅんさい池と竜神様、大瀬の長者）

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

“地域包括支援センター山の下”の協力を得た。

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ① 敬老お楽しみ会：新しい演目の導入、特に振り込め詐欺についての落語には拍手喝采を得た。
- ② 福祉研修会：事例紹介やグループ討議を通して、関係者の意識向上が図れた。
- ③ 歳末ゲーム大会：会場が満員となる約350名の参加を得て、三世代の交流の場を盛況下につくることができた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・マンネリ化を防ぐため各事業の内容選定に苦労した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・事業内容を検討しながら毎年継続する。

(1) 敬老お楽しみ会 (9/13日)

(2) 東山の下地区コミュニティ協議会 平成27年11月15日

コミ協・秋の行事盛りだくさん
敬老お楽しみ会・楽しみました落語やマジック、歌に踊りするなど

去る9月13日、中地区コミュニティセンターで第27回敬老お楽しみ会が開催され、約250名の参加者で賑わいました。
特に、振り込め詐欺に騙されないよう呼びかけた三流亭楽々さんの落語は拍手喝采でした。



(2) 福祉研修会 (11/18日)

グループ討議



(3) 歳末ゲーム大会 (12/20日)

ビンゴゲーム



千本つりゲ



ビンゴゲーム景品



東区 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名：新潟市コミュニティ交流会

活動内容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

・コミュニティ協議会(以下コミ協という。)発足時、コミ協の活動のあり方や活動内容についての知識が少なかったことから、より多くの情報を得てスキルアップする目的で区を越えての交流会を西蒲区の巻まちづくり協議会と行った。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

・1年に1回、巻地区まちづくり協議会との交流会を行ってきたが、できるだけ地域も異なる多くの団体との意見交換がより意義あると考え、平成22年度交流会には西区、南区のコミ協にも参加を呼び掛けた。究極的には全市8区のコミ協が参加する交流会を目標とした。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

・巻地区まちづくり協議会(西蒲区)、坂井輪中学校区まちづくり協議会(西区)、白根コミ協(南区)と当コミ協が幹事団体となり、各自区内のコミ協及び他区のコミ協に参加を呼び掛けた。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

・平成27年度には、6区16団体のコミ協と各区の行政職員を合わせ90人以上の交流会が開催できた。10の分科会に分かれ互いに意見を交わし有意義であったと考える。
・平成28年度は、全市8区のコミ協が参加予定。(100数十名の参加が予定される)

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

・参加人数が多くなることによって、一堂に会することが出来る広間や分科会を行うための多くの部屋数が必要となり、場所・会場が限られてくる。
・会場までの交通手段の検討。
・総まとめ役団体の業務負荷が大きい。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

・参加者の意見等を聞きながら、コミ協の相互レベルアップと活性化を図って行きたい。



全 体 会 議



分 科 会 会 議

東区 新潟市木戸地域コミュニティ協議会

活動名：新潟市協働事業提案モデル事業
(東区工場夜景バスツアー)

活動内容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

・東区は「工場のまち」というイメージで、地味でむしろ少々暗さを感じる人が多いと思えた。東区の地域住民も自分達のまちにあまり魅力があるものはないと思っていた。
ところがある時、新潟県立大学の学生さんから東区には「工場夜景」の魅力が潜んでいると提言を受け、東区のPRと地域の活性化を図る目的で、平成25年度に本事業を始めたが、より拡大すべく平成27年度は新潟市協働事業提案モデル事業として行った。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

- ・東区以外の人達にも多く参加してもらい広く東区をアピールする。
- ・参加者から本ツアーを通して更に東区をアピールしてもらおう。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ・市報にいがた、東区だよりに事業の紹介・応募方法を広報してもらった。
- ・応募者の受付を市のコールセンターにお願いした。
- ・新潟県立大学の学生さんに「外からの目でみた」感想も入れたガイドをお願いした。
- ・メディアシップ展望台では、シティガイドの人にガイドをお願いした。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

- ・NPO法人まちづくり学校、新潟県立大学、通船川ルネッサンス

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

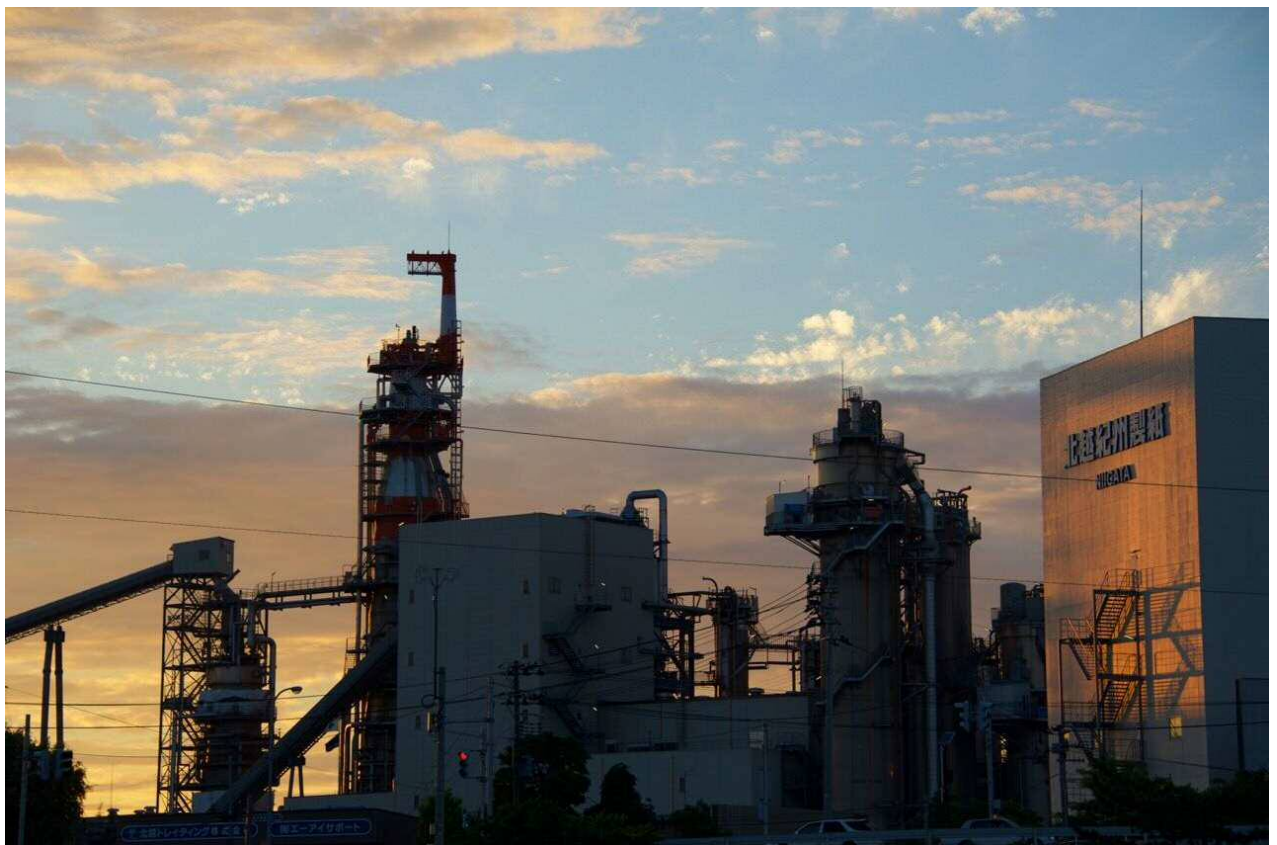
- ・東区に住む人たちは魅力あるこの町を誇りに思い、東区以外の人には東区の魅力を改めて感じてもらった。
- ・平成28年度には、東区庁舎誕生5周年の1事業に取り上げられた他、旅行者によっても更に7回のツアーが計画された。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・当初参加者募集を先着順としたが、数十分程度で定員に達し、断らなければならない事態となった。
- ・これを踏まえ平成28年度は抽選とした。結果、参加出来ない方がまだ多く旅行者によって7回実施されることになった。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・旅行者が商業ベースの費用で今後も参加者があり、事業として成り立っていくのであれば、東区のPRの面からも継続されることを望む。



東区 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名：地域の安全や防災対策事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

東日本大震災をきっかけに、地域住民間でも危機感が高まり、防災に対する意識を具体的な行動に移せるまでに高める必要に迫られた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

先進地に学びながらの防災意識の向上、研修した成果を実践する活動、自分たちが主体者なる活動を組織していく。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

防災対策先進地等の施策研修、合同防災訓練の実施、ワークショップを取り入れた防災対策研修会を実施する。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

中野山小学校、防災士会、東区総務課安心安全係

実 績 ・ 効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

次第に研修会や防災訓練の参加者も増えるようになり、地域の中で、「みんなで自分たちの安全を守る」という意識が少しずつ強くなりました。

また、子どもたちの声かけにより、「さわやか挨拶の輪」が広がってきています。

さらに、巡回中にゴミ拾いをする住民もおり、環境面でもいい影響が出ています。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦勞した点はどんなところですか？

当初は、一番危険だといわれる下校時の見回りが人員不足で手薄になっていました。重要な時間帯であるため、地域で協力者を募集したところ、多くの住民の方から参加いただくことができました。

防災研修等の会の案内状の内容を工夫し、参加意欲が出るよう配慮した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

地域の下校パトロールは継続する。挨拶運動を小中学校徒と連携し取り組む。

地震発災等災害を想定した備えを自治会の自主防災会とコミ協の防災会との連携の仕方を具体化しながら地域防災対策を立てていく。



視察研修：亀田郷土地改良区にて



防災訓練
：中野山小学校にて

東区 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名： 地域の安心安全対策事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

コミ協発足の平成18年より、子どもの安全を守るためにパトロール隊を編成し地域の安心安全を確保するための活動をしてきた。その中で新たに環境改善を含めた「赤道地下歩道」を改善するという課題が見つかった。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

「赤道地下歩道」を明るく安全に通行できる場所にする。さらに、誰もが通行したいと思えるような場所にする。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

対策委員会を立ち上げ基本構想を作成した。新潟市と協議し、協働事業とする。
小中学生に原画を描いてもらい、それを拡大パネルにして壁面に貼りつけた。できるだけ多くの児童に参画してもらうようにした。絵図を貼り付ける場所を新潟市から壁面の整備と塗装をもらった。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新潟市（主に東区役所）、中野山小学校、東中野山小学校、南中野山小学校、石山中学校、東石山中学校、東中野山小学校区コミ協、南中野山小学校区コミ協

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

地下歩道（東側）が見違えるように明るくきれいになり、地域の人々も楽しく安心して通行できると好評である。

学校や児童生徒の地域への関心が高まり、地域活動（地域清掃活動等）への積極的参加が見られるようになった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

基本構想を児童生徒に理解してもらうのが大変であった。

基本構想をつくる段階で他地区の調査や対策委員同士の意見集約に大変な労力を要した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

新潟市との協働事業や石山地区の近隣のコミ協との協働できたおかげで、当初の予想より早く、平成26年度・27年度・28年度の3年間で当事業の完成を見ることができた。

今後、この通路（西側も含め）のメンテナンスを地域全体でやっていく。児童生徒には、総合学習等で地域を知る機会として利用してもらう。



地下歩道通学風景



壁面の清掃活動

2016/07/08 15:44

東区 中野山小学校区コミュニティ協議会

活動名：花いっぱい事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

コミ協発足当初、学校を中核としたコミ協活動を目指した。
伝統ある中野山小学校は、樹木は豊富な環境にあったが子どもたちには潤いを感じられない環境にあった。子どもが土に触れ、自分たちの手で環境改善に取り組む必要を感じた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

学校の周辺を花で飾り、潤いのある環境にする。
活動は、地域の大人と児童の協働作業とし、世代間の交流の場とする。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

学校の環境を学校とコミ協で見直し、環境改善の目標を共有した。
最初に、アジサイプロジェクトを実施し、グラウンドの飛砂防止にも活用することとした。
東区の花「ポーチュラカ」を学校の周辺に咲かせ、地域住民にも広げてもらう。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新潟市（主に東区役所）、中野山小学校、園芸業者、旧市立園芸センター

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

「ポーチュラカ」の植栽は、5年生の活動とし秋口には同じプランターでチューリップを植栽し、新1年生を華やかに迎えることができるようになった。

5年生の恒例の行事にしたことにより、学校も地域も共通の目標ができ、年々手際よく作業が進められるようになってきた。また、地域の人々の関心高まり植栽前の準備等も熱心に関わるようになってきた。（教育文化部が中心となる）

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

花をきれいに咲かせるには年間の綿密な計画と持続的な手入れをする人が必要であり、この計画を推進する人の確保に工夫を要した。

地域住民には、子どもの活動やその成果を丁寧に広報するように努めている。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

今後児童数の減少が進むが、植栽プランターの数は減らさず継続したい。さらに、公園等にも植栽を広げたい。

学校の保護者を含め、地域の大人には多くの人から交流に参加してもらおうよう働きかける。



